

厚生省心身障害研究報告書  
サンプル版イメージデータベース(CD-ROM版)について  
分担研究 保健福祉情報の整備と活用に関する研究

研究協力者 中沢 明紀<sup>1)</sup> 中村 敬<sup>2)</sup> 斉藤 進<sup>2)</sup>  
恒次 欽也<sup>3)</sup> 庄司 順一<sup>2)</sup>

## 要 約

平成7年度に試作した厚生省心身障害研究報告書サンプル版イメージデータベース(CD-ROM版)の活用にあたり保健医療関係者にモニターを依頼し、その利用上の問題点について検討した。イメージデータベースは図表の多い報告書を電子情報として提供する際には有用と思われたが、報告書そのもの鮮明な文字、図、表が必須であることが指摘された。また、サンプル版は検索ソフトとイメージデータベースとの連携は必ずしもスムーズでない点、検索のためのデータベースは表題、研究者名、見出し語だけでは検索には不十分である点等が指摘された。

見出し語 厚生省心身障害研究報告書 データベース 検索 CD-ROM 経葉

## はじめに

CD-ROM データベース等 CD-ROM を媒体とした情報の提供方法は近年急速に普及してきている。平成7年度、我々は厚生省心身障害研究報告書の効果的な提供方法の一つとして、電子出版用に開発された CD-ROM ソフト「経葉」を使用した一報告書のサンプル版イメージデー

タベース(CD-ROM版)を試作した<sup>1)</sup>。今回は、このサンプル版を用い、実際に保健関係者にモニターを依頼し、その利用にあたっての問題点等について検討したので報告する。

---

1)神奈川県藤沢保健所 2)日本総合愛育研究所

---

3)愛知教育大学

## 方 法

(1)厚生省心身障害研究報告書サンプル版イメージデータベース(CD-ROM版)

使用した報告書は厚生省心身障害研究「市町村における母子保健事業の効果的実施に関する研究」平成6年度研究報告書(平成7年3月主任研究者 高野 陽)である。この報告書は、主任研究者の総括報告、4人の分担研究者の総括報告及び研究協力者による研究報告42編からなり、構成は他の報告書と同様であるが、総頁数は331頁で比較的ボリュームのある部類に属するものである。

サンプル版は、「厚生省心身障害研究報告書」の表紙から最終頁までの内容をCD-ROMソフト「経葉」<sup>2)</sup>を試用し、報告書そのままの形でイメージデータベース化したものと、検索としてCD-ROMソフト「万葉」を試用した「愛研データベース」の2つに分かれている。

「経葉」については、主に全体的な評価、インストール方法、表示、印刷等について検討した。「万葉」については、主に全体的な評価、検索等について検討した。

### (2)動作可能なパソコン

Intel 80386以上、(推奨Intel 80486以上)を搭載したコンピュータでWindows3.1Jが稼働しCD-ROMドライブが付いているもの。メモリは8MB(推奨16MB以上)、ハードディスク空き容量5MB以上が必要で、ディスプレイ解像度は、256色モードが望ましい。

### (3)モニター

保健医療関係者にモニターを依頼し、利用上の問題点等について検討した。

## 結果及び考察

(1)報告書のイメージデータベースについて

動作環境がPC98及びその互換機、IBM PC/AT及びその互換機に対応しているが、Macintoshには対応できていない。「経葉」自体の問題であるが、医学系にMacintoshが広く使われていることを考慮に入れると、実際に報告書をCD-ROMにて提供する際にはMacintoshにも対応できるものが望ましい。

インストールについてはマニュアルどおりに行えば比較的容易であった。

目次画面から必要な論文を見つけ該当する頁へのジャンプする機能は、非常に容易で、厚い報告書の頁を繰らなくても済むという点で便利である。頁については、次頁表示、前頁表示、指定頁表示、連続改頁等の操作は容易であった。しかし連続改頁のスピードが速く、利用することは少ないと思われた。

表示については、「全体表示」では頁全体がウィンドウに収まる大きさと画面に表示されたが、解読は困難で印刷イメージ程度としてなら利用できるという意見が多かった。「横幅優先」では、横幅がそのウィンドウの幅になる大きさと表示され、文字のサイズは最適で画面の鮮明度は比較的良好で十分実用に耐えうるとの意見が多かった。しかし、ほとんどの研究論文が2段組であるためディスプレイ表示で論文を1頁毎に読み進むには頁の左段最終行から再び右段1行目に戻る必要がありそのたびにマウスで操作する必要がありやや煩雑であった。イメージデータベースの作成を考慮すると2段組より1段組にした方が望ましいと思われる。図・表に

については比較的鮮明で十分実用に耐えうるが、一部グラデーションのかかった図に関しては実物の報告書に比べると若干鮮明度が欠けていた。また、この報告書にはなかったが、別の報告書でやや不鮮明で文字の小さい図表が見受けられ、これに関してはイメージデータベースでは解読困難であることが予想された。

印刷については、プレビューはうまく表示されないが、印刷自体は比較的鮮明で、十分に使用に耐えうるものであった。

全体的には、報告書を1頁1頁読み進める感覚で扱え、報告書に比べ軽量でサイズも小さく持ち運びや収納に便利である点で評価された。特に、文字データだけでなく図・表の多い報告書では、電子出版する際には、全てを統一された電子情報で集めることは現時点では容易ではないため、報告書そのままのかたちで取り込んだイメージデータベース CD-ROM は有力な情報メディアと考えられた。

## (2) 愛研データベース(検索用)について

経葉(報告書イメージデータベース)と万葉(愛研データベース:検索用)との連携が理解されにくく、使用しにくいという点が共通の意見であった。万葉で検索して目的の論文を経葉で呼び出す操作がなかなか慣れるまでに時間がかかり改善の余地があると思われた。

検索については、「項目指定検索」と「思い付いた言葉で検索」の2種類があり検索のために、「研究題名」、「研究者名」および「見出し語」がデータベースとして登録されている。「項目指定検索」については使い勝手が悪いという意見が多かった。例えば「研究題名検索」は、

目次の機能で代用できるので必要性は疑問であった。「研究者名検索」は1研究者が複数回にわたり頭出しがされており、1研究者からその研究者の関わった複数の論文が同時に検索できるシステムにはなっていない。同様のことは「見出し語検索」でもいえ利用しにくい。その点「思い付いた言葉で検索」の機能は非常に有用で、目的とする論文を検索することが比較的容易であった。しかし、登録されたデータベースが研究題名、研究者名、見出し語のみであり、特に見出し語については、明確な選定基準もないためこれだけで検索に用いるには不十分であると考えられた。すくなくとも「要約」の文章中に含まれている言葉から検索できるようにすべきであるとの意見が多かった。

以上の点から、イメージデータベース(CD-ROM版)は、図表の多い報告書を電子情報として提供するためには実物の報告書に不鮮明な図表・文字があればさらに解読されにくくなる等の限界はあるものの、現時点では実現性のある有効な手段であることが示された。しかし検索にはまだ工夫が必要で、検索ソフトとの連携についてはもっとスムーズに出来ることが望ましく、検索語の登録も表題、研究者名、見出し語だけでは不十分で「要約」も含める必要があることが明らかにされた。

厚生省心身障害研究報告書の様式については、厚生省児童家庭局母子保健課育成医療係長からの事務連絡「心身障害研究費国庫補助金の事務処理について」に記載されている。平成8年度に行った報告書様式の分析<sup>9)</sup>と今回の試作されたイメージデータベースのモニター等をふ

まえて「研究報告書の作成様式」「執筆上の問題点」「フロッピーディスク(FD)原稿提出要領」を案として付す(付表1～3)。

## 参考文献

- (1) 齊藤 進ら：心身障害研究報告書のデータベース化に関する研究 厚生省心身障害研究. 保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効活用に関する研究. 平成7年度研究報告書、pp140-144,1996
- (2) イメージ CD-ROM「経葉」参考資料：1995, 経葉社
- (3) 中沢 明紀ら：厚生省心身障害研究報告書のデータベース化に係わる問題点の検討 厚生省心身障害研究. 保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効活用に関する研究. 平成7年度研究報告書、pp133-139,1996

## 付表－1 厚生省心身障害研究 研究報告書の作成様式について(案)

厚生省心身障害研究報告書の作成様式については、「心身障害研究費国庫補助金の事務処理について」(厚生省児童家庭局母子保健課事務連絡)により概略が規定されています。しかし、平成7年度に我々が報告したように報告書の内容構成や論文の書式については統一性に欠けているのが現状です。そこで、平成6年度厚生省心身障害研究報告書(11冊)をもとに、将来的な報告書のデータベース化を視野に入れた「報告書作成要領(案)」をまとめましたのでよろしくお願いいたします。

### I 研究報告書の印刷作成について

- 1 大きさは日本工業規格A列4判とする。
- 2 背表紙に記入する文字等は様式16－(1)に掲げる様式とする。
- 3 表紙に記入する文字等は様式16－(2)に掲げる様式とする。
- 4 研究報告書の内容構成は以下のものとする。
  - (1)表紙
  - (2)目次
  - (3)総括研究報告
  - (4)分担研究報告
  - (5)班員名簿：様式16－(4)

### II 総括研究報告について(様式－A)

- 1 40字×32行で段組はとらない。
- 2 構成は以下のものとする。
  - (1)表題
  - (2)主任研究者氏名
  - (3)研究目的
  - (4)実施計画
  - (5)研究成果
  - (6)今後の研究方針(最終年度は研究総括)

### Ⅲ 分担研究報告について

#### 1 分担研究者による総括報告（様式－B）

- ・ 40 字× 32 行で段組はとらない。
- ・ 構成は以下のものとする。

- (1)研究課題名
- (2)分担研究者氏名
- (3)リサーチクエスション
- (4)研究目的
- (5)研究方法
- (6)研究結果
- (7)今後の課題

#### 2 研究協力者等による報告（様式－C）

- ・ 21 字× 32 行の横 2 段組とする。
- ・ 構成は以下のものとする。

- (1)表題 （当該研究が属する分担研究課題名を付すこと）
- (2)研究者名（所属を欄外に記すこと）  
\* (1)・(2)については、英文表題、英文著者氏名も付すこと
- (3)要約 （300 ～ 400 字程度）
- (4)見出し語（6 個程度）
- (5)はじめに（研究の背景・目的）
- (6)研究方法（研究・調査・実験等に関する手法の記述）
- (7)研究結果（研究等の結果・成績）
- (8)考察（研究結果の考察・評価）
- (9)参考文献
- (10)欧文抄訳（任意記載）







1 報告書は、ひらがな、カタカナ、常用漢字、現代かなづかいを用いて書くこと。外国語を用いるときは、半角文字を用いること。

2 数字は、原則として半角文字を用いること。

3 数量の単位は原則としてSI単位を用いること。(km,m,cm,mm,l,dl,ml,kg,g,mg,など)

4 見出し語は6個以内とし、検索として役立つものを用いること。略語は使用しないこと。外国語を用いる場合は、適切な日本語がない場合に限る。

5 参考文献について

(1)文献は必要最小限にとどめること

(2)記載順序は引用順とし、本文中の引用箇所は、その右肩にアラビア数字を記入すること。

(3)文献の書き方は、次の形式とする。

ア 雑誌の場合：著者名．表題．雑誌名 発行年；巻：最初ページー最終ページ．

イ 単行本の場合：著者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社，発行年．

ウ 分担執筆の単行本の場合：著者名．表題．編集者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社、発行年：分担部分の最初ページー最後ページ．

エ 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名とし、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。

オ 雑誌名は、雑誌指定の略号があればそれを用い、ない場合はIndex Medicus あるいは日本医学雑誌名表（日本医学図書館協会編）にあるものを用いる。

厚生省心身障害研究報告書を CD-ROM として広く提供するために以下の要領の通り、報告書とは別に提出をお願いします。

- 1 FD には、ラベルを貼り、報告者の氏名、ファイル名、使用ソフト名（ワープロ専用機の場合はその機種名）等を記載して下さい。
- 2 プリントアウトしたものを1部添付して下さい
- 3 本文、表、図はそれぞれ別のファイルにして下さい。
  - (1)本文：テキスト形式
  - (2)表：テキストまたは画像ファイル
  - (3)図：画像ファイル
- 4 機種別ファイル形式等
  - (1)Windows や MS-DOS パソコン  
本文・表：テキスト形式  
図：BMP 形式 (GIF, TIFF, JPEG 形式も可)  
FD：MS-DOS フォーマット
  - (2)Macintosh  
本文・表：テキスト形式  
図：PICT 形式 (GIF, TIFF, JPEG 形式も可)  
FD：IBM フォーマット (Mac フォーマットでも可)
  - (3)ワープロ専用機 (テキスト変換機能付きの機種)  
本文：ベタ打ち (2段組にしない) でテキスト形式に変換  
表・図：プリントアウト  
FD：MS-DOS フォーマット
  - (4)ワープロ専用機 (テキスト変換機能無しの機種)  
本文：ベタ打ち (2段組にしない) でワープロ文書ファイルのまま  
表・図：プリントアウト  
FD：各ワープロ専用フォーマット

## 5 入力基本仕様

(1)文字数：A4 版横書き（40 字× 32 行）

(2)本文：ひらがな、カタカナ、「、」「。」「・」「:」「;」「( )」「~」「%」などは全角で入力して下さい。特殊文字は原則として避け全て JIS 第一および第二水準に置き換えてください。

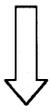
(3)数字：本文中の数値として使用する数字は、全て半角を使用して下さい。

(4)「ー」と「-」：長音記号「ー」とハイフン「-」を区別して下さい。

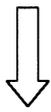
(5)改行：表題・氏名・見出し語等の直後か、文章段落の強制改行時のみ「改行キー」を入力して下さい。

(6)字詰め：スペースキーによる字下げ、字上げなどの字詰め設定は避けて下さい。

(7)タブ、インテンドの設定：本文中でのタブ、インテンドの設定は避けて下さい。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要 約

平成7年度に試作した厚生省心身障害研究報告書サンプル版イメージデータベース(CD-ROM 版)の活用にあたり保健医療関係者にモニターを依頼し、その利用上の問題点について検討した。イメージデータベースは図表の多い報告書を電子情報として提供するには有用と思われたが、報告書そのもの鮮明な文字、図、表が必須であることが指摘された。また、サンプル版は検索ソフトとイメージデータベースとの連携は必ずしもスムーズでない点、検索のためのデータベースは表題、研究者名、見出し語だけでは検索には不十分である点等が指摘された。